

31平均律のコード表記法

...

おことわり

今回の講演ではコードをプレーンテキストで表記します。

- 基本的な構造(復習)
- コード表記の本質
- 接辞システム

基本的な構造

31平均律の基本的な性質

鍵盤の模式図

全音

5ステップ

全音階的半音(ミ～ファ間)

3ステップ

半音階的半音(ド～#ド間)

2ステップ

♭D		♭E		♭G			♭A	♭B
♯C		♯D		♯F	♯G	♯A		
♯C	♯D	♯E	♯F	♯G	♯A	♯B		
C	D	E	F	G	A	B		
♭C	♭D	♭E	♭F	♭G	♭A	♭B		

5度「線」

31平均律では
2本の5度線を用いて
中立音程も表現する

詳細度数	音名	調号
重増	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F
増	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F
長	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F
完全	5	G
	1	C
	4	F
	7	B
短	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F
減	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F
重減	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F

詳細度数	音名	調号
重抔	5	G
	1	C
	4	F
	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
抔	5	G
	1	C
	4	F
	7	B
	3	E
	6	A
	2	D
長	5	G
	1	C
	4	F
	7	B
中	3	E
	6	A
	2	D
短	5	G
	1	C
	4	F
	7	B
縮	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F
	7	B
重縮	3	E
	6	A
	2	D
	5	G
	1	C
	4	F
	7	B

普及した記譜体系

基本的な記号は同じだが、**ダブルシャープ**などは全音に届かない

記号	読み	上げ分
#	シャープ sharp	+2 増1度上げ
b	フラット flat	-2 増1度下げ
x	ダブルシャープ double sharp	+4 重増1度上げ
bb	ダブルフラット double flat	-4 重増1度下げ

普及した記譜体系

半音階的半音を2分割する性質に基づく呼び方

※度数に合意された日本語の呼び方はまだない

記号	読み	上げ分
	ハーフシャープ half sharp	+1 長1度上げ※
	ハーフフラット half flat	-1 長1度下げ※
	セスキシャープ sesqui sharp	+3 拡1度上げ※
	セスキフラット sesqui flat	-3 拡1度下げ※

詳細度数の確認

距離	1度		2度	
0	U	ユニゾン		
1	M1	長1度	dim2	減2度
2	aug1	増1度	sm2	縮2度
3	Saug1	拡1度	m2	短2度
4	Daug1	重増1度	n2	中立2度
5			M2	長2度
6			SM2	拡2度
7			aug2	増2度

詳細度数の確認

距離	2度		3度	
5	M2	長2度		
6	SM2	拡2度	dim3	減3度
7	aug2	増2度	sm3	縮3度
8	Saug2	重拡2度	m3	短3度
9	Daug2	重増2度	n3	中立3度
10			M3	長3度
11			SM3	拡3度
12			aug3	増3度

詳細度数の確認

距離	3度		4度	
9	n3	中立3度	Ddim4	重減4度
10	M3	長3度	sdim4	縮4度
11	SM3	拡3度	dim4	減4度
12	aug3	増3度	m4	短4度
13	Saug3	重拡3度	P4	完全4度
14	Daug3	重増3度	M4	長4度
15			aug4	増4度
16			Saug4	拡4度
17			Daug4	重増4度

詳細度数の確認

距離	4度		5度	
13	P4	完全4度		
14	M4	長4度	Ddim4	縮4度
15	aug4	増4度	sdim4	重減4度
16	Saug4	抃4度	dim5	減5度
17	Daug4	重増4度	m5	短5度
18			P5	完全5度
19			M5	長5度
20			aug5	増5度

詳細度数の確認

距離	5度		6度	
18	P5	完全5度		
19	M5	長5度	dim6	減6度
20	aug5	増5度	sm6	縮6度
21	Saug5	拡5度	m6	短6度
22	Daug5	重増5度	n6	中立6度
23			M6	長6度
24			SM6	拡6度
25			aug6	増6度

詳細度数の確認

距離	6度		7度	
23	M6	長6度		
24	SM6	拡6度	dim7	減7度
25	aug6	増6度	sm7	縮7度
26	Saug6	重拡6度	m7	短7度
27	Daug6	重増6度	n7	中立7度
28			M7	長7度
29			SM7	拡7度
30			aug7	増7度

詳細度数の確認

距離	7度		8度	
26	m7	短7度		
27	n7	中立7度	Ddim8	重減8度
28	M7	長7度	sdim8	縮8度
29	SM7	拡7度	dim8	減8度
30	aug7	増7度	m8	短8度
31			P8	オクターヴ

コード表記の本質

標準位置の存在

「G7」というコードがあったら？

右図の構成音になる。

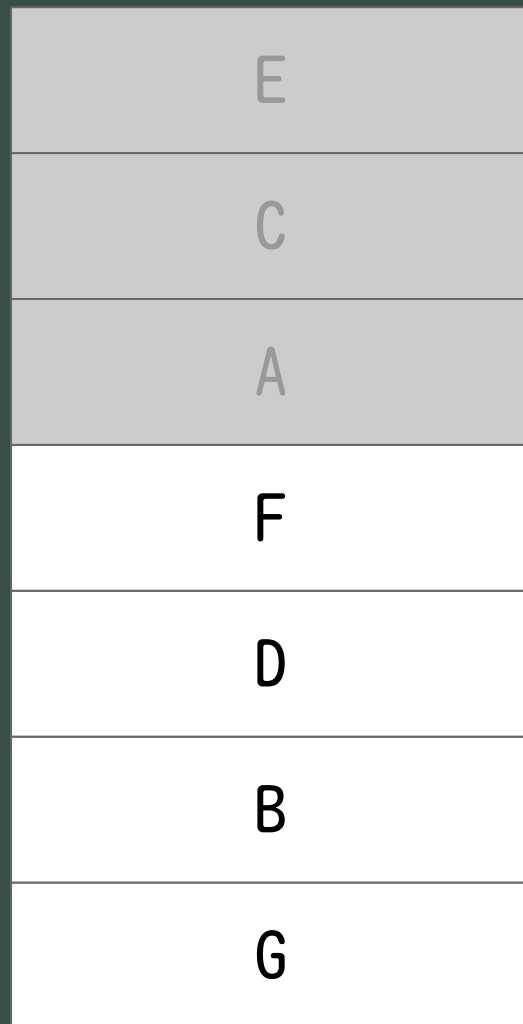
F
D
B
G

標準位置の存在

「G7」というコードがあったら？

右図の構成音になる。

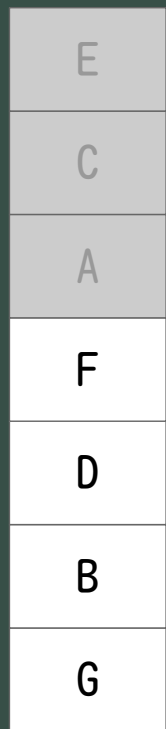
しかし、裏側ではその上の音まで見据えられていて、その一部が露出している状態。



標準位置の存在



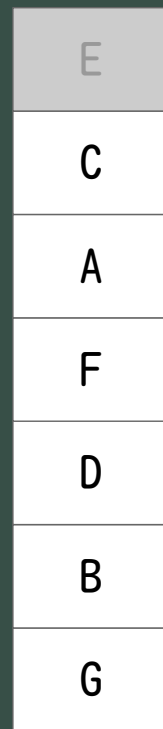
G



G7



G9



G11



G13

接辞システム

接辞による構成音の変化

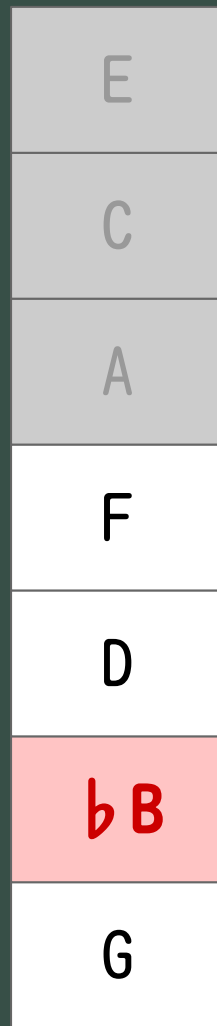
標準の位置から、接辞がつくと？

構成音が一部だけ変化！

GM7



Gm7



他の主要な接辞

9thには
異論有

E
C
A
#F
D
B
G

GM7

E
C
A
F
D
bB
G

Gm7

E
C
A
#F
D
bB
G

GmM7

E
C
A
F
bD
bB
G

Gø7

E
C
A
bF
bD
bB
G

Gdim7

E
C
A
F
#D
B
G

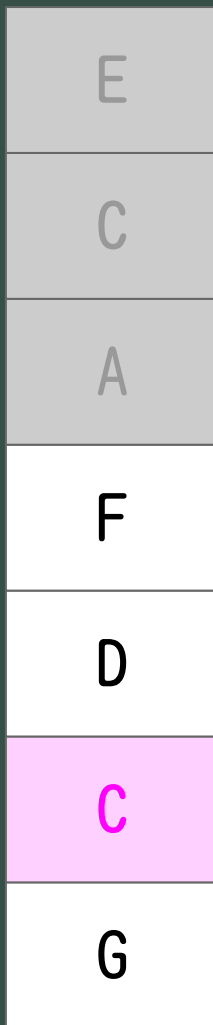
Gaug7

置換の接尾辞 sus4 sus2

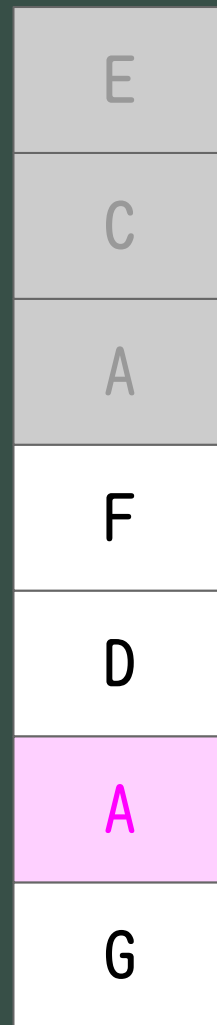
変位ではなく
音程の度数を置換！

3度の置換スペル

G7sus4



G7sus2

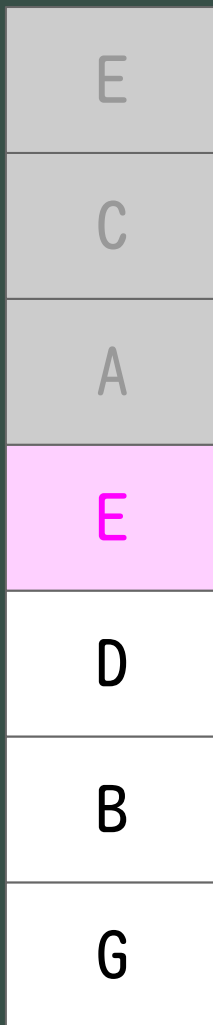


置換の接尾辞 6

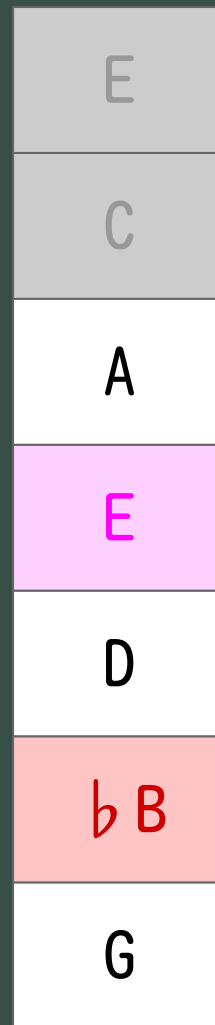
変位ではなく
音程の度数を置換！

7度の置換スペル

G6



Gm6/9



(特殊)パワーコード

omit3と書いていると
長いので簡易表記「5」

「ニュートラルコード」と呼ばないように！

G5

E
C
A
F
D
B
G

3度7度の同時表記の継承

使う機会は極端に少ないが用意

	sm7=aug6	m7	n7	M7	SM7
sm3	sm	smm	sm	smM	smSM
m3	m(#6)を使用	m	mn	mM	mSM
n3	n(#6)を使用	nm7	n	nM	nSM
M3	(#6)を使用	なし	Mn	M	MSM
SM3	SM(#6)を使用	SMm	SMn	SMM	SM

サブマイナーの7thの扱いについては後述

Gn7

E
C
A
#F
D
dB
G

括弧書き

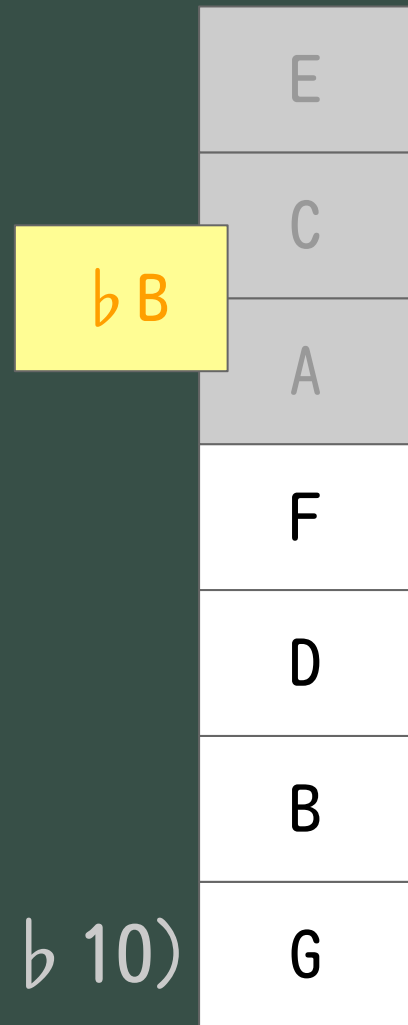
音を追加するパターン

- ・テンションの部分的追加
- ・偶数度の音の追加

G7(#11)



G7(♭10)

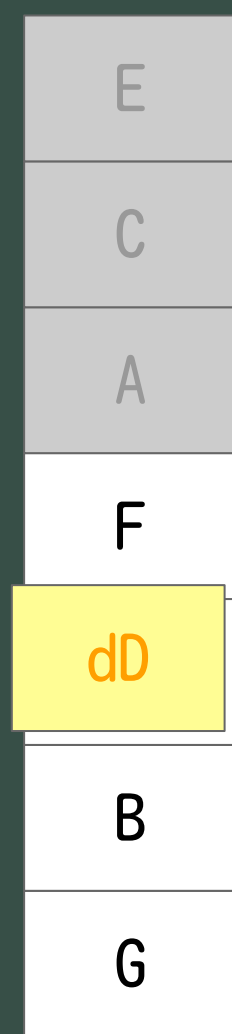


括弧書き

音を上書きするパターン

- ・ 既存の度数の変位的上書き

G7 (d5)



特筆すべきコード

正規ジミヘンコード

異名同音が廃されたため、
#9ではなく(♭10)

♭B

G7(♭10)

E
C
A
F
D
B
G

特筆すべきコード

augだと勘違いされていたもの

異名同音が廃されたため、
短調のドミナントIII7系統のaug7は
先取音としての13thテンションに修正

G7 (**b 13**)

b E

C

A

F

D

B

G

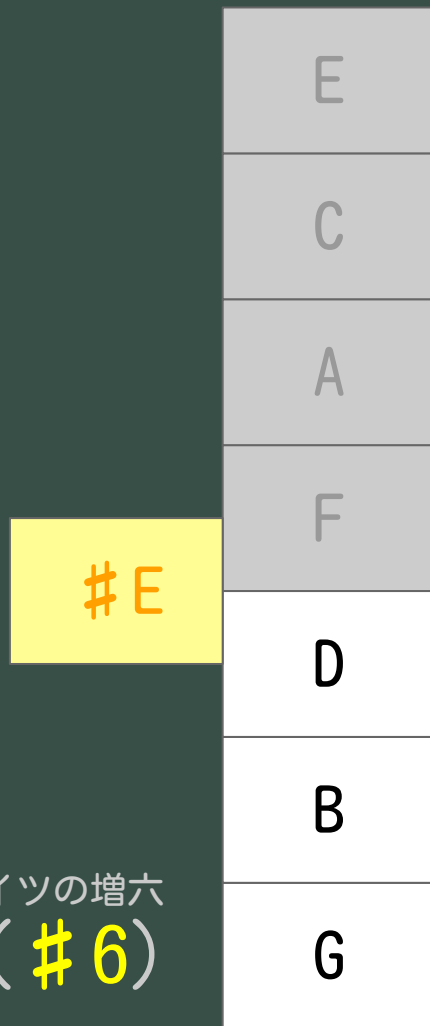
特筆すべきコード

増六の諸和音と自然7度

音階を破壊してまで自然7度を取らない為、
自然7度はエンハーモニックの差分を利用し
増六和音として運用する

31平均律では実質的なサブマイナー7thであるので、
「sm7」を実質的には使わない

ドイツの増六
G(# 6)



特筆すべきコード

A vertical stack of six notes: E, C, A, F, D, B, G. The notes E, C, A, and F are in grey boxes, while D, B, and G are in white boxes. A yellow box with the text "#E" is positioned to the left of the F note.

ドイツの増六
G(#6)

A vertical stack of six notes: E, C, A, F, D, B, G. The notes E, C, A, and F are in grey boxes, while D, B, and G are in white boxes. A yellow box with the text "#E" is positioned to the left of the F note.

イタリアの増六
G(#6)omit5

A vertical stack of six notes: E, C, A, F, D, B, G. The notes E, A, F, and D are in grey boxes, while C, B, and G are in white boxes. A yellow box with the text "#C" is positioned to the left of the C note.

フランスの増六
G(#11, #6)omit5

A vertical stack of six notes: E, C, A, F, D, B, G. The notes E, C, A, and F are in grey boxes, while D, B, and G are in white boxes. A yellow box with the text "#E" is positioned to the left of the F note. A yellow box with the text "#C" is positioned to the left of the C note.

“Blackadder” コードの一種の
スラッシュを使わない表記
G(#11, 9, #6)omit5,3

スラッシュコード

最低音を特段指定するもの
最低音が構成音にあってもなくてもOK

G/ #F

E
C
A
F
D
B
G
#F

ありがとうございました。